

第 14 回北信越錬成大会(全日本弓道選手権大会) 石川県代表選手選考会結果

日時：令和 7 年 6 月 28 日（土） 9：00～15：00

会場：石川県立武道館弓道場

審判団：木下(鋼)会長、水橋名誉会長、宮本副会長、坂本副会長

参加者：男性 16 名(+3) 女性 11 名(-4) 計 27 名(-1) ※()内は前年比 オープン参加含

7 月 20 日（日）に長野県飯田市で開催される第 14 回北信越錬成大会の代表選手、男子 5 名、女子 5 名が以下の通りに決定しました。北信越錬成大会（北信越ブロック予選会）において、第 76 回全日本男子弓道選手権大会・第 58 回全日本女子弓道選手権大会の北信越ブロック代表男女 5 名が決定します。

男子

奥村 恭史 教士六段（小松市）
咲川 雅敏 教士六段（金沢市）
曾山 良和 教士七段（中能登町）
中條 大輔 教士七段（羽咋市）
友安 正人 教士七段（金沢市）

女子

浅香 直美 錬士五段（小松市）
加藤 裕子 錬士六段（金沢市）
越能 公子 教士七段（金沢市）
島 満栄 錬士六段（野々市市）
山本真理子 教士七段（能美市）

※五十音順

代表選手



第 14 回北信越錬成大会 令和 7 年 7 月 20 日（日） 開催地：長野県飯田市

県予選会参加者は、男子が昨年比+3名の16名、女子が昨年比-4名の11名、計27名の参加でした。

当日は、弓具検査、開会式と進み、開会式では木下(鋼)会長から、昨年の弓道誌の岡崎範士の講評からや、指導者講習会での指導内容についての話がありました。「弱い弓で形良く整え、中るところをうかがい、手先の合わせ離れでの紙を破ることでは感動感銘は生まれない。全身を使った無限の伸び合いから発する射、持満の中で押し寄せる煩惱と戦い、それを排して一射絶命の射が求められる」、「弓の基本は伸び合いである、弓はとりわけ体、土台は体である。土台は安定しなければならない、体を安定させるために体を硬直させては離れでぶれてしまう。だから、伸び合いである。でもそれが難しい。伸び合いをいかに残身まで続けるかである。ではなぜ伸び合いが途切れるのか、それは狙うからである、的に気を囚われるから自分の体がわからなくなる。伸び合っているのに離す前に必ず狙う、抑えるな、止めるな、体を正しくすることを考える。引分け、会、残身は作業であり、離れは現象である。引分け、会、残身、離れの順、会を作ったら止まる。足りないと思うから動く、会の位置で離すのではなく、それより少し後ろで離す気持ちで」

今日は是非そういった射を1射でもいいから見たいなと思います。今日はいいい時間をいい空間を過ごせたなと思わせていただけるように頑張ってくださいと激励があった。この言葉が選手にどう響くのか、間もなく競技が開始されました。



予選は、各自一手2回を審査の間合いで行います。全体的に的中率が低く、男子の的中率は0.313、女子では0.432と低調な結果となります。最高得点は男子が曾山選手、女子は山本選手が獲得。得点上位枠として、男子は曾山選手、友安選手、女子は山本選手、越能選手が代表に決定しました。



男子最高得点 曾山選手



女子最高得点 山本選手

残る代表3枠は、予選3位～7位の選手で決勝を行い、的中上位3名が代表に決定します。決勝に進出したのは、男子が牧口選手、咲川選手、奥村選手、道越選手、中條選手、女子は浅香選手、木村選手、加藤選手、山口選手、島選手が決勝に駒を進めました。昼食休憩の後に、競技が再開されました。緊張感が漂う中、1回目が終了しましたが、予選に続いて的中が伸びません。束中したのは、男子が中條選手、女子は島選手の2名。決勝2回目も中が伸びません。女子の島選手だけが的中を重ねたが、それ以外は最後までどう転ぶかわからない展開となりました。決勝3回目、男子で初出場を狙う牧口選手が、甲矢を的中させたが、乙矢を失中、続く咲川選手が乙矢を的中させ、牧口選手はあと一步のところまで代表権を逃してしまい、咲川選手、奥村選手、中條選手が代表に決定。女子も最後の最後までわからない展開となりましたが、浅香選手、加藤選手、島選手が代表権を獲得しました。



牧野理事長より代表選手の発表後、木下会長より講評をいただき、閉会となりました。

－木下会長 講評－

素晴らしい射を拝見させていただき、感動しています。ただ、予選決勝共に羽分けにも届かず、残念ながら的中に関しては悪かったなという風に思います。弓道には正射必中という言葉があります。正しい射をすれば必ず中るという風に解釈しています。この言葉が真実であるならば、本日の場合は中りが少なかったということは、正しい射が少なかったという風に解釈してもよいのではないのでしょうか。皆さんは今日のこの日のために稽古されてきたと思いますし、また今日のこの結果を見て、県の代表となられた方も、残念ながら選手になれなかった方も、またこれから稽古に励むことになると思いますが、県の代表になったことで「すごいね、さすが、この人が県の代表か、素晴らしいね」と言われるかもしれませんが、その言葉の裏には、「あれで県の代表なのか、あの射で代表なのか、あんな体配でいいのかどこに射品があるのか」と思う人もいるかもしれません。注目される立場になった時ほど、弓道修練の四つの眼目を思い出していただいて、さらに精進に努めて欲しいなという思いです。代表になられた方はしっかりと北信越錬成大会でさらに頑張っていたいただきたいと思います。

